

ニュース詳細

<http://www3.nhk.or.jp/news/html/20140524/k10014700601000.html>

NHK から7時のニュース

集団的自衛権 双方の立場から意見交わす
5月24日 19時09分

今週、与党内の協議が始まった集団的自衛権について考えるシンポジウムが都内で開かれ、安全保障の専門家が賛成と反対の双方の立場から意見を交わしました。

シンポジウムは、日弁連＝日本弁護士連合会が開いたもので、およそ450人が参加しました。

専門家が集団的自衛権の行使に賛成と反対、それぞれの立場から意見を交わし、元防衛官僚の柳澤協二さんは「集団的自衛権を行使すれば、日本の有事ではないのに紛争の当事者になって、相手国は日本を攻撃することが可能になる。安全保障の議論では、国民に対しメリットとデメリットを合理的に説明していくべきで、情に訴えるのはいちばん使ってはいけない手段だ」と述べました。

一方、安全保障が専門で拓殖大学海外事情研究所長の川上高司さんは「日本は、軍事費を削減しているアメリカに、有事の際、本当に守ってもらえるのかという問題に直面している。アメリカを巻き込み抑止力を高めるためにも、集団的自衛権の行使は必要で、相手に守ってもらうためにはこちらにも血を流して相手を守る必要がある。ただ、そのためには国民の合意を得て憲法を改正するべきだ」と指摘しました。

娘と参加した40代の女性は「集団的自衛権は国の根本に関わる問題だということがよく分かりました。政府は自分たちだけで決めようとするのではなく、私たち国民の声を聞いてほしい」と話していました。